

NEC田んぼ作りプロジェクト（上太田）レポート VOL. 39

日本晴を収穫！上太田の谷津田で、初めてニホンアカガエルが見つかりました！

10/19：稲刈りイベント

11/9：脱穀イベント

2013年12月26日

■10月19日（土）参加者：57名・活動内容：稲刈り、オダがけ、どんぐりアート、生きもの観察会

■11月9日（日）参加者：82名・活動内容：脱穀作業、かも池泥上げ、藁ない体験、どんぐりアート
生きもの観察会

稲刈りイベント

10/19 日本晴の稲刈りをしました

復田をして耕作面積が広がった上太田の田んぼで、初めての稲刈りをしました。

今年の日本晴の耕作面積は、復田によって1,400㎡から2,600㎡に増加しています。広い面積での作業となったので、手刈りに加えて、動力稲刈り結束機（バインダー）を活用して、一気に刈り取りをしました。

はじめに、牛久市長より開会のご挨拶をいただきました。これからも、上太田の谷津田再生に協力・支援して行きたいと心強いお言葉をいただきました。



稲刈りの開始です。ボランティアスタッフのリーダーから、稲の刈り方や、束ね方についてレクチャーがありました。今回、初めての参加者も多く、みなさん真剣です！刈り取る人、束ねる人、運び出す人、オダにかけるとに分かれて作業をはじめました。みなさんペースが速くて、オダを立てることが間に合わないぐらいでした。



子ども達も、稲を積極的に運んでくれました。水が湧いていて泥深いA田んぼでは、刈り取った稲の移動に、レンコンボート（赤い大きなソリ）が役立ちました。みなさんのアイデアで、両方から引っ張られるようになっています。



足場のしっかりしているD田んぼとウ田んぼでは、バインダーで稲刈りをしました。どんどん刈り進みます。



午前中の活動終了！刈り終わったB田んぼの前にて記念撮影！



お昼ご飯は、オオヒシクイの新米、天ぷら（レンコン、サツマイモ、とり天）カボチャの煮物、具たくさん秋の味覚汁、地元野菜の漬け物、牛久女産ゆで落花生、牛久奥原の無袋減農薬りんご、霞ヶ浦で採れたワカサギでした。



お昼休みには、飯島から上太田の谷津田の生きものについて、お話ししました。

参加者は、機械化のために土地改良が行われ田んぼを乾燥させることで、稲刈り後に産卵が必要な水たまりが消え、身近な生きものである赤トンボ（アキアカネ）が減っていることに驚いている様子でした。泥んこの稲刈りで作業はとても大変でしたが、田んぼの上空を舞うアキアカネの群れを見て、NECの田んぼ作りプロジェクトでは、水が溜まる田んぼを維持することで生物多様性に貢献していると実感できました。

また、無農薬であるにもかかわらず害虫による被害がほとんど無かったことや、朝のうちは蚊に刺された昼食広場にもトンボによって昼間は蚊がいなくなることなど、生きもの魅力に惹きつけられていました。



10/19 どんぐりアート



午後子ども向けプログラムでは、谷津田周辺で採集したどんぐりと、台風で倒れた杉から切り出した板で、思い思いの工作をしました。大学生のお姉さんのサポートで、色々な楽しい作品が出来上がりました。



10/19 生きもの調べ

どんぐりアートの次に、みんなでタモ網や捕虫網を持って、生きもの観察に出かけました。田んぼ横の水路には、アメリカザリガニが見つかったり、ヨシのしげみからはオオアイトトンボが見つかったりしました。





午後からも引き続き、足下がぬかるむ田んぼで稲刈り作業です。活動時間後も、ボランティアスタッフによって、30分の延長戦！おかげで、すべての稲を刈り終えることが出来ました。みなさんお疲れ様でした。

稲刈りの終わった田んぼには、泥のある水たまりに産卵するアキアカネのペアが、たくさんやって来ていました。



新しいア田んぼの前にて、午後は多くのお楽しみイベントもあって少数精鋭での作業でした

脱穀作業当日は、うれしいニュースから始まりました。龍ヶ崎の駐車場から、達人散策路を通って田んぼへ向かう途中で、参加者の小学生がニホンアカガエルを見つけました！



ニホンアカガエルは、春の訪れを一番に教えてくれる産卵が早い蛙で、近年冬に水場が無くなってしまふことから減少しています。上太田の田んぼでは初めて見つかりました。冬水田んぼにしている達人田んぼのおかげかもしれません。

脱穀作業は、「ガーコン♪ガーコン♪」と自分で言うことから、ガーコンと呼ばれる足踏み脱穀機と、風の力によって、ホコリやわらくずを飛ばしてしまう、唐箕（とうみ）を利用しました。



作業の様子は、産経新聞茨城県版に取り上げられ、カラー写真付きの記事が翌日の朝刊に掲載されました！

オダがけしてある稲を作業場所まで運ぶ人、脱穀をする人など、いつの間にか役割分担がしっかりできていました。



脱穀作業と並行して、オダを片付けました。ぬかるむ足場もある中、どんどん片付いていきました。



ホタル誘致への試みとして、脱穀後のワラを田んぼの中に積みました。冬水田んぼの中で、タニシなどの貝類や、ミジンコの餌となり、春の田んぼが豊かになります。

午後からは、盛りだくさんなプログラムです。

① すり鉢と硬式野球ボールを利用して、粃すり体験をしました！

ゴリゴリゴリとボールをすり鉢でまわすと、モミがとれて玄米が顔を出します。息をフーッと吹きかけるともみ殻が飛んでお米が残る仕組みです。各々で1回食べられるかな？というぐらいの玄米が出来上がりました。



② 地主さんに講師をお願いして、ワラないの体験をしました！

わらで長い縄や、リースを作りました。初めての参加者もいましたが、面白い作品が出来上がりました！



③ 稲刈りで好評だったドングリアートに今回もチャレンジ！

大学生のお姉さんのサポートの下、シラカシのどんぐりも加わり、思い思いの作品が出来ました。



④ 台風の影響で埋まってしまったカモ池の泥を上げる作業をしました！

今回、一番の重労働だったかもしれません。台風による大雨で泥が溜まってしまい、干上がりつつある池に、水面を確保しました。池の周囲に上げた泥にはたくさんの植物の種が眠っているはず、来春の芽生えも楽しみです。



引き続き脱穀作業も行いました。ハーベスターという動力式の脱穀機を利用して、たくさんの稲穂をどんどん片付けていきます。…が、途中から機械の調子が悪くなりストップ。モミを送る機構の調子が悪いので、その部分を外して作業をするなど、試行錯誤しましたが結果的には途中で、敢え無く中止。後日、機械を修理してから脱穀を行うことになりました。



▼子ども建設が事務所を建築、古くなったオダを骨組みにして、ヨシが屋根になりました。



11月にもかかわらず蛙に出会える日でした。こちらはアズマヒキガエル▲

最後に集合写真！みなさんお疲れ様でした！！



後日、ハーベスターを修理し、無事に脱穀を完了、ハーベスター袋で30袋収穫できました！

★11/15 潮来のご協力いただいている農家にて、14%まで乾燥させました。



★11/20 乾燥後、粳すりです。選別するドラムを替えることで粳すり後の玄米とクズ米を選別します。



616キロの玄米が採れました。等級検査によって昨年同様の二等米と判定されました。



上太田の田んぼの畦に、ヒガンバナを植えました。来秋をお楽しみに！

それではまた次回、田んぼでお会いしましょう。 認定NPO法人アサザ基金 小堀進